

コミュニティ回収を始めた地域の声



始める前に地域として一番危惧したことは？

収集もれ等の未収集があった場合、再生資源事業者では対応してくれないのではないか？と心配したが、即時対応してくれて何の問題もなかった。

古紙が持ち去られることにより、収集量が上がらないのではないか？と考えていたがコミュニティ回収を始めたことで、持ち去る者も地域の目を気にし始めたのが徐々に減ってきた。

コミュニティ回収を始めてよかったこと

「捨てればごみ 分ければ資源」と言われるように、貯めておけば収益にもなり、ごみの減量にもつながる。コミュニティ回収を通じて古紙は地域の財産だと意識してもらえるようになった。



コミュニティ回収を始めたことで、地域でのコミュニケーションができ生活するうえで目に見えない繋がりができた。コミュニティ回収は地域が仲良くなるツールと言える。

● 古紙・衣類の持ち去り対策で資源の確保を

大阪市では、平成29年4月より古紙・衣類の持ち去り行為及び持ち去られた古紙・衣類の譲受け行為を規制し、平成29年10月より違反行為者に対しては、指導等を経たうえで過料を科すほか、氏名等を公表することとしています。

持ち去り行為者を目撃・発見した際には、直接声をかけることは避け、目撃・発見した場所、時間、特徴（車両ナンバー等）などを、お住いの地域を担当する環境事業センターまでご連絡ください。巡回パトロールや取り締まりに関する貴重な情報源となりますので、ご協力をお願いします。

